

平成 22 年のアユ資源調査結果概要

酒井明久・田中秀具・西森克浩・上野世司・金辻宏明・上垣雅史・氏家宗二

1. 研究目的

アユの資源水準や成育状況を評価するため、魚群分布調査、産卵状況調査、ヒウオ生息状況調査および成育状況調査を実施した。

2. 研究方法

魚群分布調査は、1 月から 8 月まで毎月 1 回、北湖の水深 30m 等深線に沿ったコース上に出現する魚群数を観測した。

産卵場状況調査は、8 月から 10 月にかけて延べ 5 回、北湖に流入する 11 河川の産卵場においてアユの産卵数を調査した。

ヒウオ生息状況調査は、10 月から 12 月まで毎月 1 回、北湖において網口 1m×2m の角形幼生網による 1,000m の水平曳きを 18 回行い、1 曳網当たりのヒウオ採集尾数を求めた。

成育状況調査は、エリとヤナの漁獲標本を収集し、体長および体重を測定した。

3. 研究結果

魚群数は、1 月を除き平年値を大きく上回った(図 1)。

産卵数は、252.3 億粒で平年値 115.4 億粒を大きく上回った(図 2)。

ヒウオ生息密度は、11 月と 12 月の調査では平年を大きく上回った(図 3)。

平成 22 年 2 月以降の漁獲魚の平均体長は、エリでは平年並み、ヤナは漁期を通じて平年を上回った(図 4)。

4. 研究成果

これらの調査結果は水産試験場ホームページに掲載し、漁業関係者等へ情報提供した。

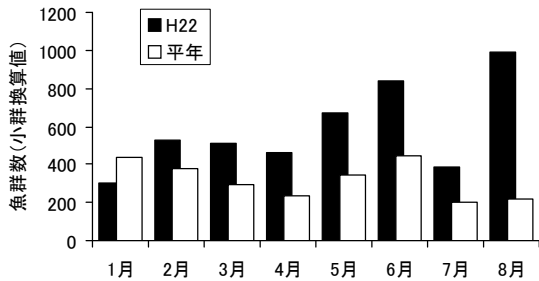


図 1 魚群数の推移。
平年値は過去 10 年間の最大・最小を除く 8 年間の平均値。

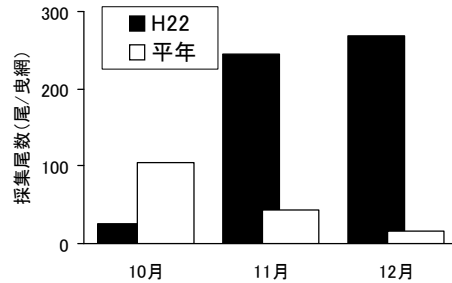


図 3 ヒウオ生息密度。
平年値は過去 10 年間の最大・最小を除く 8 年間の平均値。

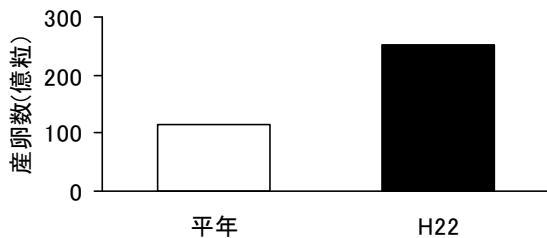


図 2 天然河川における産卵数。
平年値は過去 10 年間の最大・最小を除く 8 年間の平均値。

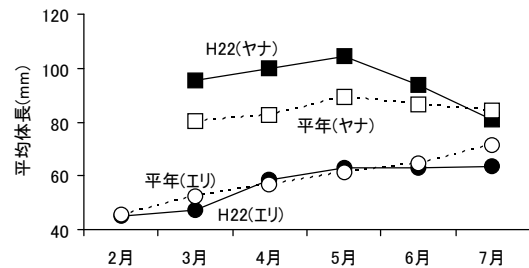


図 4 エリ・ヤナ漁獲魚の平均体長。
平年値は過去 10 年間の平均値。